

心ふれあう

ちょっといい話

おかやまのちょっといい話

シリーズ 15

※チラシは偶数月の第一月曜日に皆様にお届けしています。過去のシリーズはアーバンホールのホームページでもご覧いただけます。

おとうさんと呼ばれた日

「打ったたびに手が痛そうですね、大丈夫ですか？」

ゴルフのラウンド中、キャディさんに声をかけられました。

「そうなんです、最近は普段でも手の平の筋が痛くて」

と相談すると、それなら名医がいる総合病院があると教えてくれました。

いいことを聞いたと早速に問い合わせましたら、さすがは噂の先生。受診するだけで1カ月後です。

待ちに待った1カ月後の受診の時。先生に診てもらった途端に「これはいけませんね」と。すぐに手術の日取りが決まりました。日帰りのできる手術です。

そして手術当日。帰りは両手が包帯でぐるぐる巻きになるので、妻に運転して連れて帰ってもらおうつも

りで、二人で出かけました。病院について手術までの準備をしていた時、背後で「おとうさん!!」と呼ばれました。

振り返ると、30代後半ぐらいの女性看護師が立ってこちらを見ています。

私しかいません。

その瞬間、「あ、」と記憶がつかまりました。

彼女が中学生の25年ほど前、1年半ほど私の家で暮らした洋子ちゃんでした。知人の娘さんだったので

すが、思春期の彼女は悩み、悪い友人の影響で横道に逸れそうになっていました。ちょっと環境を変えた

方がいいだろうという事で一時私が預かることにしたのです。良く喧嘩もしましたし、叱りもしました。



随分昔の話ですし、まさかこんなところで再会するなんて夢にも思いません。彼女が看護師として働いていることも全く知りませんでした。当時「おとうさん」と私の事を呼んでくれていたのです。

お互い嬉しくついでに抱き合ってから再会を喜びましたが、私はすぐに手術だったので、ほどなくして手術室に入りました。

無事、手術が終わって夕方帰る頃、別の看護師さんが洋子ちゃんからだと行って、一通の手紙を渡してくれました。子供の迎えがあつて、帰りに会えないから渡してほしいと預かったそうでした。聞けば、休憩中、洋子ちゃんがおいおい泣くのだそうです。涙を聞くと恩人だと思っている私に再会したのが嬉しくて泣いていたというのです。

気の強い洋子ちゃんが泣くのでびっくりしたと、その看護師さんが話してくれました。

私はもう、胸が熱くなりました。再会しただけでも感動したのに、そんな想いで手紙を預かるなんて。

帰りの車の中、当時の昔話をして妻と盛り上がりました。

自宅に帰って、手紙を読むと私の家を離れてからの洋子ちゃんの報告と「今の私があるのはおとうさんのおかげです。」と、私への感謝がつけられていました。歳のせいかわ涙もろくなつたもので、私まで涙が止まりませんでした。

持病の治療をきっかけに思いがけない巡り合せでした。

これを機会にまた洋子ちゃんとの交流も復活したいと思っています。

人生は一人じゃない。二人三脚で走らねばならんこともある。 手塚治虫

二人三脚は、お互いに呼吸を合わせ、同じ方向へ同じペースで進むことで初めて前に進みます。お互いを思いやる心こそが本当に大切な事なのではないでしょうか。

葬儀・法要・ギフト

あなたのアーバンホール

アーバンホール